KOBE UNIVERSITY

ー第３号ー

地域・だいがく連携通信

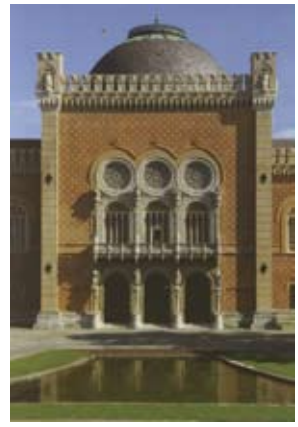
ー神戸大学地域連携ニュースー

神戸大学地域連携推進室
〒657-8501
神戸市灘区六甲台町 1-1
TEL:078-803-5029
FAX:078-803-5049
E-mail:ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

【特集】「地域」から「ウィーン」へ

―　「青野原俘虜収容所里帰り展覧会・演奏会」の開催　―

地域連携推進室


軍事史博物館

今から約 90 年前、第一次世界大戦当時の兵庫県青野ヶ原には俘虜収容所があり、ドイツ兵、オーストリア＝ハンガリー兵合わせて５００余名が収容されていました。

祖国を遠く離れた土地で俘虜兵たちは、それぞれに趣味や娯楽を見出して日常生活を送っていました。また、演奏会の開催や俘虜の生産品を通じて地域住民と交流をおこない、新たな技術や文化を伝えてきました。

青野ヶ原は現在の兵庫県小野市、加西市にまたがる地域です。小野市と地域連携協定を結んでいる神戸大学は、小野市のおこなう青野原俘虜収容所の実態究明に協力してきました。そして、2005 年には小野市好古館での展示会、エクラホールでの神戸大学交 響楽団による再現演奏会（1919年3月30日開催の俘虜による慈善演奏会の再現）の開催、2006年には神戸大学百年記念館での展示会、瀧川記念学術交流会館における再現演奏会を開催し、社会的にも認知されるものとなりました。

今回、展示会を 9 月 3 日から 10 月 29 日まで、俘虜兵の祖国の一つオーストリアの国家文書館で開くことで、青野原俘虜収容所の俘虜兵たちを「里帰り」させることといたしました。同時に、オーストリアに存在する史（資）料も展示することで、国際的な学術交流にもつながっていきました。

また、この企画には、国家文書館及び軍事史博物館での神戸大学交響楽団による再現演奏会の開催もあります。史（資）料だけでなく、学生の演奏を通じて、俘虜兵の思いにも心を寄せる機会を設けています。

地域に残されていた資料から、大学との連携がはじまり、資料を生み出した俘虜兵の祖国、オーストリアまでつながっていく。まさに、世界史の中に地域が位置づくという、時空を超える出来事の広がりに、地域連携事業の可能性を感じる事ができました。

国家文書館での展覧会の様子

軍事史博物館での演奏会

小野市からの応援団

「青野原俘虜収容所里帰り展覧会・演奏会」参加記

小野市民団団長　坂田大爾

第一次大戦のオーストリア兵の俘虜収容所が、小野の青野ヶ原の地にあったことを知る人は、もう僅かな人達であった。この事実が『小野市史』で紹介され、小野好古館、神戸大学との共同研究の成果が展示されたのは、むしろ奇跡に近い。これも歴史そのものであった。

この度、オーストリアの首都ウィーンの国家文書館での展示会が開催されると聞き、ついに、小野市の事象が世界史の一部になったのかと驚き入った次第である。これを機会に一度「ウィーン」へと誘われて断わる理由がない。改めて市民の有志の士を募ったところ、２０名程の参加を得て、市民団の結成が図られた。

さて、ウィーンでの展示であるが、９月３日より、３ヶ月に亘るロングラン展示であるとのこと。さて、如何なる反響が彼の地であるか、大いに気になるところである。まだ始まったばかりなので、その報に接することができないのが残念であるが、大いに期待している。因みに、国内では「読売新聞」が９月５日に、その記事を載せ、その状況を詳しく紹介されている。

内容の展示及び神戸大学交響楽団の演奏会については、好古館での展示及びエクラホールでの演奏会と、概要は変らず、好評裡に終始したというべきであろう。

その中で印象的であったのは、演奏会で司会を一部担当された通訳の女性が、ウィーンに在住すること三十年の経歴であったが、演奏曲目が日本のメロディーになった時、思わず絶句し涙ぐまれたシーン。望郷の念を強くされたのではと、我々も思わず心ひかれるものであった。

一方、市民団として参加したのではあったが、神戸大学と小野市との提携の中で、市民の役割が今一つはっきりしなかったのが気になった。公式行事への参加の呼びかけもなく、終始旅行者としてのアウトサイダー的立場であった。青野ヶ原を含む地区の調査に係わってきた区長も、当地参画しており、何らかの公式行事も設定されていなかったのも含め、残念なことであった。

とは言うものの、オーストリアの文化と風景は、我々に深い感動となごみを与えてくれ、大いに盛り上った。途中での大学との交流会、或いはさよならパーティ等、区切りある旅程となり、初秋のウィーンの風物を満喫出来たのは大きな収穫であった。

これも、神戸大学と小野市の交流により企画されたものであり、参加皆様のご協力に感謝いたしております。有難うございます。（小野の歴史を知る会会長）

小野市民団の皆様（オーストリア国家文書館にて）

たくさんの方から応援していただきました

ウィーンでの「青野原俘虜収容所里帰り展覧会・演奏会」の開催にあたりましては、多くの企業・地域の皆様からご支援を賜りました。ここに敬意と感謝を込めて掲載させて頂きます。

〈ご協賛頂きました企業等〉　（順不同）

DAIKIN EUROPE N.V.
株式会社アマダ、　AMADA Austria GmbH
アシックス商事株式会社
株式会社フジタ精米人、　小野匠工業会
市立小野市民病院内科医師一同の皆様
株式会社ユーエム工業
株式会社河合楽器製作所姫路ショップ
小野の歴史を知る会、　株式会社 JTB 西日本
私立育が丘クリニック、凌霜三四会有志の皆様
神戸大学文窓会（神戸大学文学部同窓会）
神戸大学響友会（神戸大学交響楽団OB会）

〈個人でご支援くださった皆様〉　（順不同）

白川欽一	様（神戸市在住）	佐々木裕	様（横浜市在住）
渡邊香織	様（東京都在住）	西村興亜	様（加東市在住）
上田通泰	様（西脇市在住）	藤井栄一	様（明石市在住）
篠原慶希	様（小野市在住）	平出静生	様（小野市在住）
西山茂敏	様（明石市在住）	門田正義	様（神戸市在住）
清水章弘	様（小野市在住）		

＊神戸大学交響楽団定期演奏会、小野市及び神戸大学での壮行演奏会でも多くの皆様からご支援いただきました。

＊国家文書館での展示では、人文学研究科大津留厚教授に、交響楽団の演奏にあたっては、人文学研究科長野順子教授、人間発達環境学研究科田村文生准教授にご指導いただきました。

交響楽団体験記

◆音楽の都、ウィーン。普段クラシック音楽を演奏している私たちにとって、今回の演奏旅行は本当に忘れることのできない貴重な体験となりました。

今回行った演奏会は、ヨーロッパの人々にとって非常に親しみのある曲目を全く環境や文化の違う日本人の私たちが演奏するというもの。

音楽を専門としていない学生の私たちにとっては大変なもので、練習はいつも以上にハードになりましたが、編曲・指揮をして下さった田村先生の熱い指導の下、一夏かけて６曲をよいカタチで完成させていくことができました。

現地に着いてからは、私たちの予想もしないトラブルが起こったり、実際に行ってみないとわからないことも多く、戸惑うこともたくさんありました。

中でも演奏会場である軍事史博物館は、日本にはそうそうないであろう天井の高い巨大な建物で、残響がとても甚だしいため、今まで練習してきたものを本番直前になって大幅に変更するという珍しいハプニングもありました。

しかし、ウィーンの歴史・文化溢れる場所で演奏でき、また来て頂いたお客様に喜んでいただけ、なかには私たちの演奏を聞いて涙を流して感動して下さった方もいらっしゃって、私たちにとって大変喜ばしい結果となりました。

1919 年 3 月 30 日に実際に使用された演奏会プログラム

演奏のための旅行でしたが、数々の美術館を巡り名画を鑑賞し、日本でも広く知られている作曲家たちのゆかりの地へ行ったり、特に最終日には国立歌劇場で本場のオペラを見ることができ、かなりいい刺激になりました。

最後になりましたが、このような素晴らしい環境で演奏する機会を設けて下さった大学の先生方、職員の皆様、そして暖かいご支援を下さった非常に多くの皆様に本当に感謝しております。ありがとうございました。

このような貴重な体験を、今後の交響楽団の活動に活かせていけたらと思います。

（国際文化学部 ３回生 藤井 大樹）

◆今回、ウィーンという、古くから音楽が根ざした土地で演奏する機会をいただけたことは、不安や恐れもあったものの、それをはるかに上回る素晴らしい体験でした。 慣れない吹奏楽形態や難解な楽譜に悩み、また準備・手続きも初めてのことが多く戸惑うことが多かったですが、田村先生を始めとする神戸大学や小野市の皆さんに、二度に渡る国内公演を成功に導いていただき、来るウィーン公演への自信をつけることができました。

ウィーンでの演奏会は、軍事史博物館や文書館という由緒ある素晴らしい場所でした。夢中で終えた演奏は、おそらくとても拙いものであったでしょう。

しかし、演奏後にはあたたかい拍手と感想をいただき、日本で一生懸命練習した甲斐があったなぁと思いました。残念だったのは、二回目の公演にあまりお客様がいらっしゃらなかったことで、私たちからも何か広報の働きかけができれば良かったと感じています。

また、フリーの日を２日間いただけたので、しっかりウィーンを堪能できました。

現地のガイドさんと仲良くなれたことや、本場の音楽に触れられたことは私たちの内面的な糧となってゆくでしょう。音楽を専門に勉強しているわけではない私にとって、おそらくこれは最初で最後の海外演奏会になると思います。様々な人々の支えによって、このような素晴らしい経験を胸に生きていけることを、感謝し、また誇りに思っています。ありがとうございました。（法学部 ３回生 藤本 佳奈子）

演奏会終了後の交響楽団員（軍事史博物館にて）

＜2008年度 地域連携公募事業＞

地域活性化への貢献をテーマに、教職員・学生から、「地域連携事業」を公募しました。

2008年度「地域連携事業」支援事業

部局等名	支援事業名
人間発達環境学研究科（ヒューマン・コミュニティ創成研究センター）	ＥＳＤに資するボランティア育成事業の推進による連携ネットワークの構築
経済経営研究所	まちづくりに新発想をもたらす小地域統計分析の試み

2008年度「学生による地域貢献活動」支援事業

学生団体等名	支援活動名
神戸大学児童文化研究会	兵庫県北部における、子ども達を対象とした巡回交流事業
神戸大学フットサル部	フットサルを通じた地域の活性化プロジェクト

＜2008年度 灘チャレンジ事業＞

灘区は、神戸大学との協定にもとづき、地域の課題の解決や魅力の向上を目的とする活動・事業に助成をおこなっています。

2008年度灘チャレンジ支援事業

部局等名	支援事業名
自然科学系先端融合研究環	耐震診断を通した灘区民の防災・耐震意識啓蒙のための活動
神戸大学児童文化研究会	人形劇公演

＜活 動 報 告＞

3 月 26 日　医学研究科及び医学部附属病院が兵庫県病院局と地域連携協定を締結（地域医療の向上）

3 月 27 日　経済経営研究所が兵庫県・兵庫労働局とフォーラム「総合化へ向かう少子化政策」を開催

6 月 11 日　国際文化学研究科が財団法人兵庫県国際交流協会と連携協定を締結（異文化理解と多文化共生社会の実現）

7 月　5 日　農学研究科と篠山市共催による地域連携フォーラムの開催（篠山フィールドステーション）

8 月 10 日　神戸大学交響楽団による「青野原俘虜収容所里帰り演奏会」開催　小野市うるおい交流館エクラ

20 日　神戸大学瀧川記念学術交流会館

9 月　3 日　「青野原俘虜収容所里帰り展覧会」（～10 月 29 日、ウィーン）

Seite 38　KULTUR　Samstag, 20. September 2008

▲ ÖSTERREICHISCHE Kriegsgefangene in Japan: eine selbst gemalte Postkarte. Re.: ÖsterreichsKriegsschiff „KaiserinElisabeth" ▶

Ausstellung im Staatsarchiv: „Nach der Heimat möcht' ich wieder!"

Österreicher als Gefangene in Japan

Ein kurioses Stück österreichischer Geschichte präsentiert jetzt das Österreichische Staatsarchiv, Wien 3, Nottendorfer Gasse 2 (U-3-Station Erdberg): Wussten Sie, dass im Ersten Weltkrieg ca. 230 österreichische Kriegsgefangene in Japan interniert waren? Ihr Schicksal zeigt die Ausstellung im Staatsarchiv. Bis 29. Okt.

Deutschland hatte 1898 in China ein Stück Land um die Hafenstadt Tsingtau als Kolonie gepachtet. Den Japanern passte die Anwesenheit von 5000 deutschen Soldaten in Tsingtau gar nicht. Als 1914 der Erste 7. Nov. 1914 kapitulierten sie. Österreichs Torpedorammkreuzer „Kaiserin Elisabeth" hatte sich schon 5 Tage früher selbst versenkt: 230 Mann der Schiffs-Besatzung wurden als Kriegsgefangene nach Japan gebracht. Ins Gefangenenlager Aonogahara in der Stadt Ono, von wo sie erst 1919/20 ihre Heimreise nach Österreich antreten durften.

Fotos aus 5 Jahren Lagerleben mit Sport-, Theater-, Musik-, Mal- und Zeichengruppen, Billardspiel, Landwirtschaft und Viehzucht, von Resten des Lagers sowie Dokumente zeigt jetzt das Staatsarchiv. *Erwin Melchart*

ZWEI österreichische Kriegsgefangene mit japanischer Bewachung.

展覧会の開催を報じる現地の新聞記事

編集後記

今回は、ウィーンでの「青野原俘虜収容所里帰り展覧会・演奏会」特集です。小野市との地域連携事業でおこなわれた「青野原俘虜収容所」研究の成果が、海を渡ったのです。現地ウィーンでもこの様子は報道されています。様々なご支援にあらためてお礼申し上げます。